泌尿紀要　第4巻 第11号　昭和33年11月25日印刷　昭和33年11月30日発行（毎月1回　月末発行）

Vol. 4, No. 11　Acta Urologica　November, 1958

泌尿器科紀要

第 4 巻　第 11 号　昭和 33 年 11 月

随想　思いつくまゝ……辻　一郎…601
男子性機能障碍症の睪丸生検像について
第Ⅰ篇　基礎的事項……酒徳　治三郎…603
男子性機能障碍症の睪丸生検像について
第Ⅱ篇　男子不妊症の睪丸生検像……酒徳　治三郎…610
神経芽細胞腫について……酒徳　治三郎・片村　永樹・坂本　吉正・佐々木　浩一・木村　清・安威　徹・沢田　真治…623
2，3泌尿器科疾患に対するエルコシン使用経験……天谷　一栄…655
新鎮痛剤オノトンの使用経験……楠　隆光・馬場　正次・前川　正信…657
ウロピリジンの使用経験—ウロサイダルとの併用—
……後藤　薫・日野　豪・杉山　喜一・粉川　雅美…659
編集後記・購読要項・投稿内規……664

Testicular Biopsy in Hypogonadal Male
I. Basic Introductive Articles. ……J. Sakatoku…603
Testicular Biopsy in Hypogonadal Male
II. Male Sterility. ……J. Sakatoku…610
Neuroblastoma ; Three Case Reports and a Review of the Japanese Literatures.
……J. Sakatoku, E. Katamura, Y. Sakamoto, K. Sasaki, K. Kimura, T. Yasui and S. Sawada…623
Evaluation of Elkosin in Urinary Infection. …… K. Amaya…655
Urological Application of Onoton. …… T. Kusunoki, M. Baba and M. Maekawa…657
A Clinical Analysis of Uropyridin Tab. (A Combination of Two Drugs, Sulfamethizole and 3-Phenylazo-2.6-diaminopyridin hydrochloride).
……K. Goto, T. Hino, K. Sugiyama and T. Kokawa…659

京都大学医学部泌尿器科教室
Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Japan.
Editor : Prof. Tsutomu INADA

泌尿紀要
Acta Urol.

編 集 後 記

東部泌尿器科学会は10月19日，日本大学医学部永田正夫教授の司会にて東京豊島公会堂にて行われた．会場は広さ，設備等申し分なかつた．ただいつも思うことであるが，スライドのために場内がまつ暗になるのが何とかなればよい．会者は約 300名．大越博士の特別講演「腎結核化学療法の限界」は我々が現在最も多く直面する問題の一つであるが，特に治癒判定に就て多くの示唆を与えられ，また外国及び本邦学者に広くアンケートを求められた結果に就て詳しく比較検討せられた．一般演説もそれぞれ立派な内容のものであつた．ただ追加，質問，討論などの発言が少いように思われた．以前にはかなり活発であつたが，今回はその意味に於てはやや低調であつたように思われた．これは一般的の傾向かも知れないが，どういう理由によるのであろうか．会が大きくなると発言しにくいことは確かであるが．来年は皮科と別に新潟で行われる．

◇

中部泌尿器科学会は11月 3 日，京府大にて岩下健三教授会長の下に行われた．会場は立派で広くゆつたりした気分である．最初の一般演説から追加発言あり，なかなか活発に進行し，今までになく活気がある．演説の内容もいずれも充実し，本会の名を重からしめるものである．小田助教授の特別講演「泌尿器科領域における腎機能の検討」はクリアランス法による腎の分節的機能測定に就ての精細なる発表で，敬服すべき研究である．シンポジアム「前立腺腫瘍の問題」は稲田教授司会にて，講師は次の三教授である．即ち石神嚢次教授は前立腺組織とホルモンとの関係を体外培養によつて研究せられ，石川昌義教授はフォスファターゼ並びに解糖作用に就て，黒田恭一教授は臨床統計，診断法，経尿道的切除術に就て，それぞれ斬新で立派な報告をせられた．これに対して会員と講師との間に約1時間に亘つて熱心な質疑応答が行われた．このような形式は今まで殆んどなかつたと思われる．演者にとつてはまことに御苦労であるが，意義は大きい．一般演説も勿論結構であるが，このような自由な討議をなるべく多くするのが，学会としてはよい行きかたではないかと思う．来年は和歌山で行われる．

購 読 要 項

1. 発行は毎月（年12回）とする．年間購読者を以て会員とする．
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する．1冊料金100円，払込みは振替口座番号京都 4772番泌尿器科紀要編集部，或は第一銀行百万遍支店．
3. 入会申込みは氏名（フリガナ），住所（雑誌郵送先），勤務先，職地位，自宅開業の別，送金方法を御記入の上編集部宛．

投 稿 内 規

1. 原稿の種類は綜説，原著，臨床報告，その他．寄稿者は年間購読者に限る．
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする．
3. 原稿は横書き，当用漢字，平仮名，新仮名使いを用い，片仮名には括孤を要しない．400字詰原稿用紙を用いること．附表，附図はなるべく欧文にすること．
4. 文献の書式は次の如くする．著者名：誌名，巻数：頁数，年次．

例．中野：泌尿紀要，1：110，昭30．Lazarus, J. A.　J. Urol., 45：527, 1941.

5. 300語以内の欧文抄録を記し，之には欧文の標題，所属機関名，ローマ字著者名を附け，なるべくタイプライターを用いること．希望の場合は当編集部にて飜訳します．抄録用の原稿を送ること．飜訳の実費は申受く．
6. 掲載料は 4 頁迄毎頁 500円，それ以上の頁，アート頁，図表，写真は実費を申受ける．別冊20部を無料贈呈．それ以上は実費を徴収する．この場合には予め希望部数を申込むこと．特別掲載も考慮する．
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする．
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院　京都大学病院　泌尿器科紀要編集部